

令和 8 年度 春日井市介護認定審査会連絡会議

【事前アンケート 集計結果】

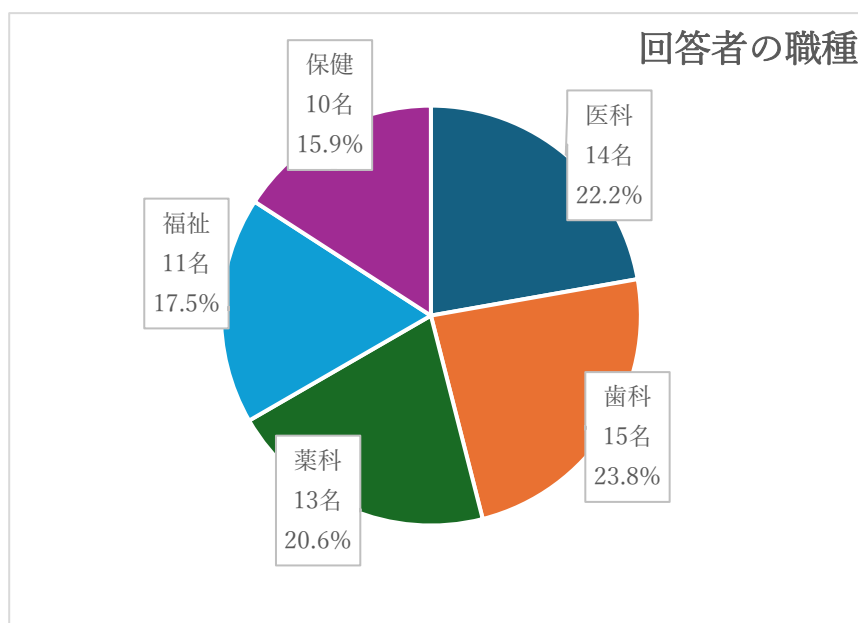
調査概要

実施期間:令和8年6月16日～令和8年6月30日

依頼人数:75 名 回答数:63 名 回答率:84.0%

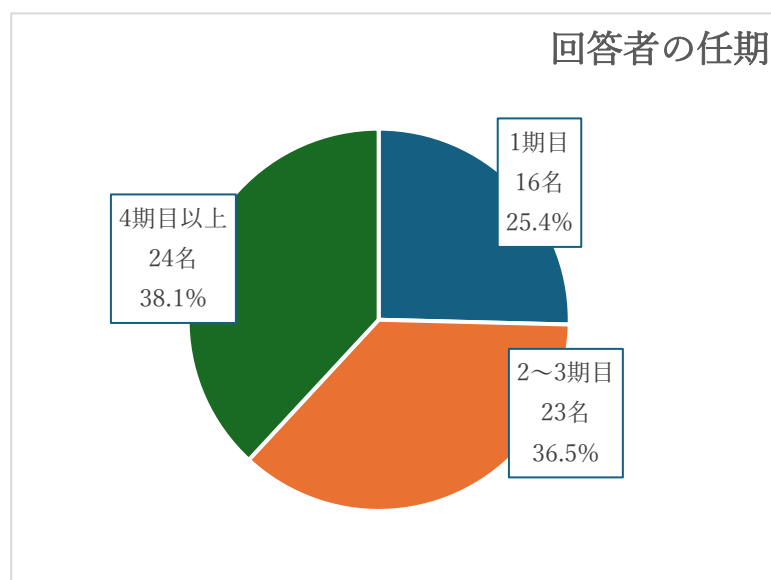
職種別

職種	人数	割合
医科	14	22.2%
歯科	15	23.8%
薬科	13	20.6%
福祉	11	17.5%
保健	10	15.9%
合計	63	100%



任期別

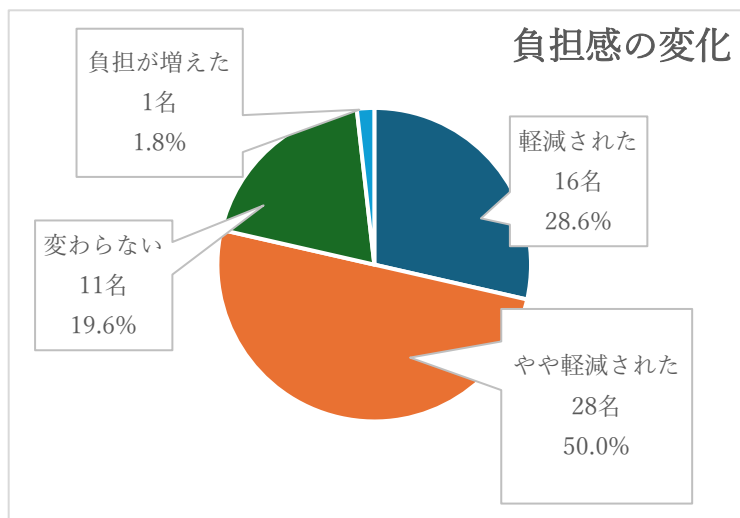
任期	人数	割合
1 期目	16	25.4%
2～3 期目	23	36.5%
4 期目以上	24	38.1%
合計	63	100%



1. 簡素化の拡大実施に関する評価

Q1. 簡素化の対象拡大により、準備・資料の読み込み等の負担感に変化はありますか？

選択肢	人数	割合
軽減された	16	28.6%
やや軽減された	28	50.0%
変わらない	11	19.6%
負担が増えた	1	1.8%
回答者合計	56	



- 「軽減された」、「やや軽減された」を選択された委員 44 名(78.6%)が負担の軽減感じている。

【負担が増えたの内容】

- 1 事例あたりの時間は少ないが、全体の件数が増えた分、負担が増えたと感じる。

Q2. 簡素化拡大したことについて、ご不安や懸念点がありますか？

選択肢	人数	割合
ある	5	7.9%
ない	58	92.1%

【「ある」の主な内容】

- 高齢者の今後の状態への不安。
- 認知症の進行など細かな変化が、議論減により見落とされる可能性。
- 有効期間が通例的に 48 か月となるが、要介護高齢者は変化しやすい。区分変更頻度など見直しの参考にしては。
- 簡素化事例で介護度が変わらなくても状況が変化していることがあり、特記・意見書から見過ごさないよう注意している。
- 簡素化はよいが件数が増えたため。

【まとめ】

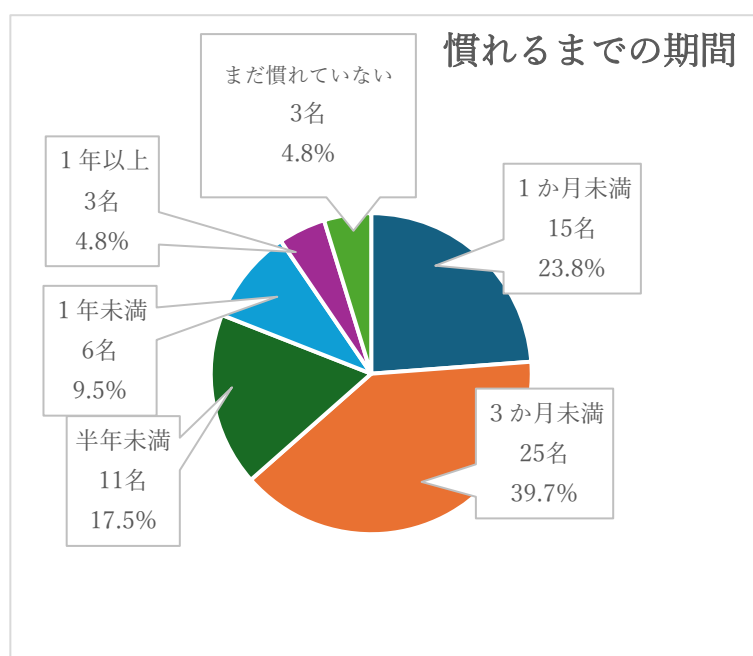
簡素化拡大による負担軽減の効果はみられる。

- 負担軽減を実感する委員が **78.6%**。「負担増」は 1 名のみ。
- 一方で「件数増による負担」「細かな変化の見落とし」への懸念が少数ながらある。

2. 新任時と現在の合議の進め方について

Q3. 審査会に参加され、合議に慣れるまでにどのくらいの期間を要しましたか？

選択肢	人数	割合
1 か月未満	15	23.8%
3 か月未満	25	39.7%
半年未満	11	17.5%
1 年未満	6	9.5%
1 年以上	3	4.8%
まだ慣れていない	3	4.8%
合計	63	100%



- ・ 3 か月未満までに慣れた委員が 63.5%(40 名)。
- ・ 一方で 1 年以上またはまだ慣れていないが 6 名(9.6%)みえる。

Q4. 審査会委員を始めた当初、どのような点に難しさを感じましたか？

分類	主な内容	件数
制度・基準の理解	制度理解、基準時間の理解、テキストの読み込み、(ローカルルール)	18
振り分け・判定	要支援 2・要介護 1(01/02)の振り分け、要介護度の判断	14
介護の手間の読み取り	調査票・意見書から手間を推測する難しさ、乖離の解釈	5
発表・進め方	発表方法が不明、進行が合議体で異なる、要介護度を上げる項目の選択	4
意見調整・時間配分	意見調整、時間配分、専門職意見の出し方	6
資料の読み込み負担	特記事項のボリューム増、読み取り負担	3

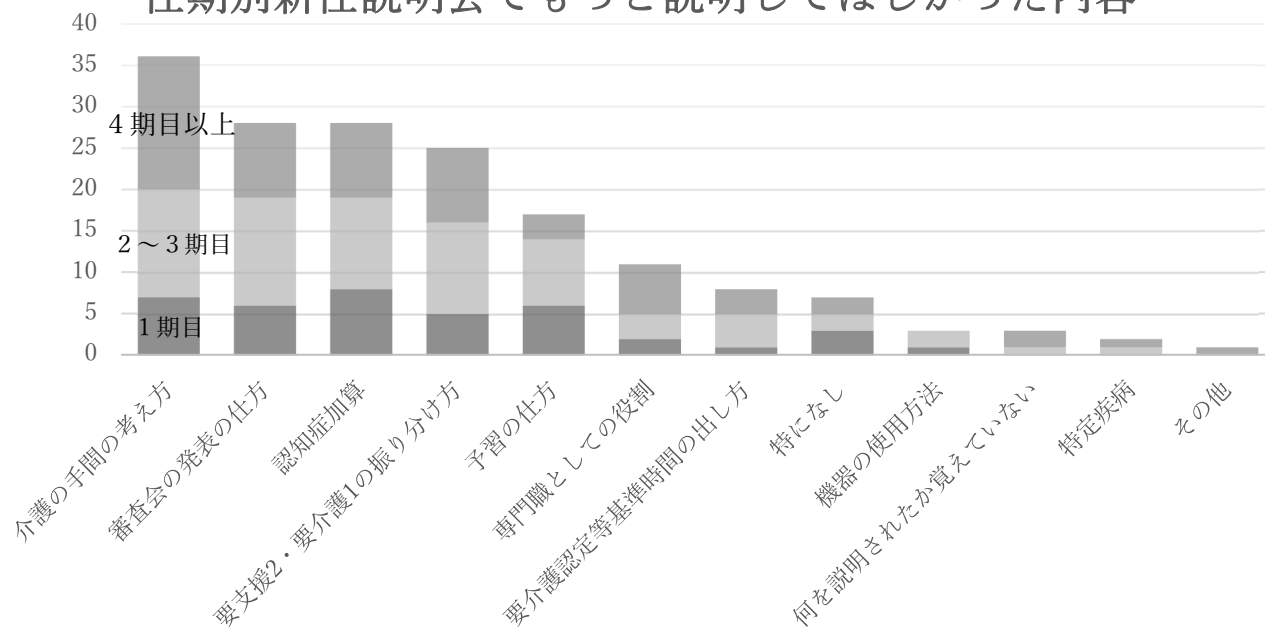
【ご意見】

- 制度の理解が追いつかず、専門性としての意見を出すのに消極的になった
- 一度審査会を見学すると予習のポイントが分かりやすい
- 調査票と意見書に乖離がある場合の判断が難しい
- 具体的に介護の手間をどう考えればいいのか4期目以上でも難しい

Q5.新任説明会でもっと説明してほしかった内容はありますか？(複数回答)

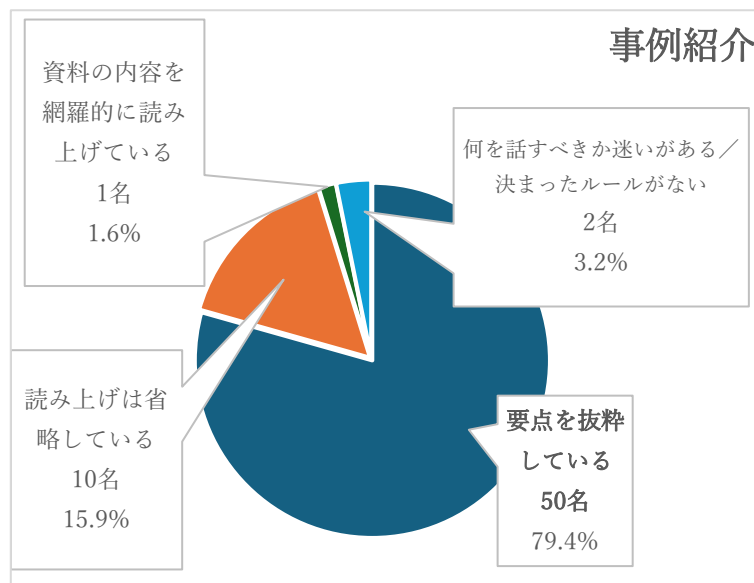
説明してほしかった内容	1 期目	2～3 期	4 期目以上	合計	回答者比
介護の手間の考え方	7	13	16	36	57.1%
審査会の発表の仕方	6	13	9	28	44.4%
認知症加算	8	11	9	28	44.4%
要支援 2・要介護 1 の振り分け方	5	11	9	25	39.7%
予習の仕方	6	8	3	17	27.0%
専門職としての役割	2	3	6	11	17.5%
要介護認定等基準時間の出し方	1	4	3	8	12.7%
特になし	3	2	2	7	11.1%
機器の使用方法	1	2	0	4	4.8%
何を説明されたか覚えていない	0	1	2	3	4.8%
特定疾病	0	1	1	2	3.2%
その他	0	0	1	1	1.6%
回答者数	16	23	24	63	

任期別新任説明会でもっと説明してほしかった内容



Q6. 現在、合議における事例紹介はどのように話していますか？

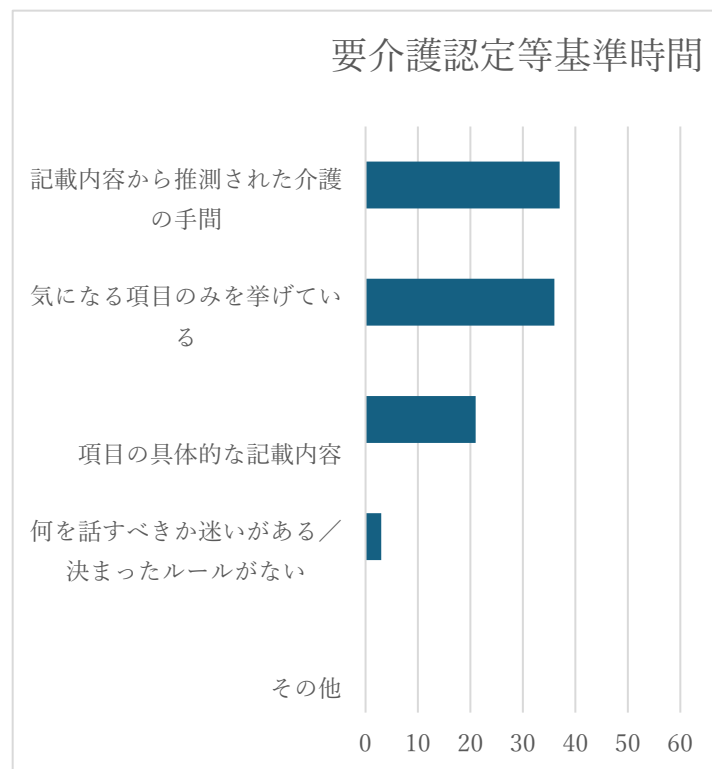
選択肢	人数	割合
要点を抜粋している	50	79.4%
読み上げは省略している	10	15.9%
資料の内容を網羅的に読み上げている	1	1.6%
何を話すべきか迷いがある／ルールがない	2	3.2%



- ・ 約95%が「要点抜粋」または「読み上げは省略している」。
- ・ 「何を話すべきか迷いがある／ルールがない」を選択された委員は任期途中より交代で参加している委員が多い。

Q7. 介護の手間(要介護認定等基準時間)について話す際、主にどのような点について話していますか？(複数回答)

選択肢	選択数	回答者比
記載内容から推測された介護の手間	37	58.7%
気になる項目のみを挙げている	36	57.1%
項目の具体的な記載内容	21	33.3%
何を話すべきか迷いがある／ルールがない	3	4.8%
その他	0	0%



Q8. 現在の議論や合議の進め方について困っていることはありますか？

選択肢	人数	割合
特にない	60	95.2%
ある	3	4.8%

【「ある」の内容】

- 予習に時間を費やしているので、話し合いで概況などは話さなくてよいと思う。
- 委員間で介護の手間の感覚に温度差がある。事務局が前期・後期統一して進行し、予習結果に意見があれば振ってほしい。
- （その他、進行ルールに関する要望）

Q9. 現在の審査会で、事例にける議論や時間は十分だと思いますか？

選択肢	人数	割合
十分	62	98.4%
不十分	1	1.6%

【「不十分」の理由】

- 1回の事例数が多いため、十分な審議が尽くされているか不安。

【まとめ】

新任説明会でもっと説明してほしかった内容

- 新任説明会でもっと説明してほしかった内容：選択の多かった上位4項目のうち「発表の仕方」以外は定義（介護認定審査会委員テキスト）に則ったものである。
- 新任説明会でもっと説明してほしかった内容は、理解が難しい内容にとらえることができる。ベテランの委員からも今でも判断に悩むことがあるとの意見もあった。

効率化志向が明確

- 事例紹介は既に 9 割超が要点抜粋・省略。
→効率化志向が顕著、「介護の手間」の認識について、ずれが生じないようにすることが重要。

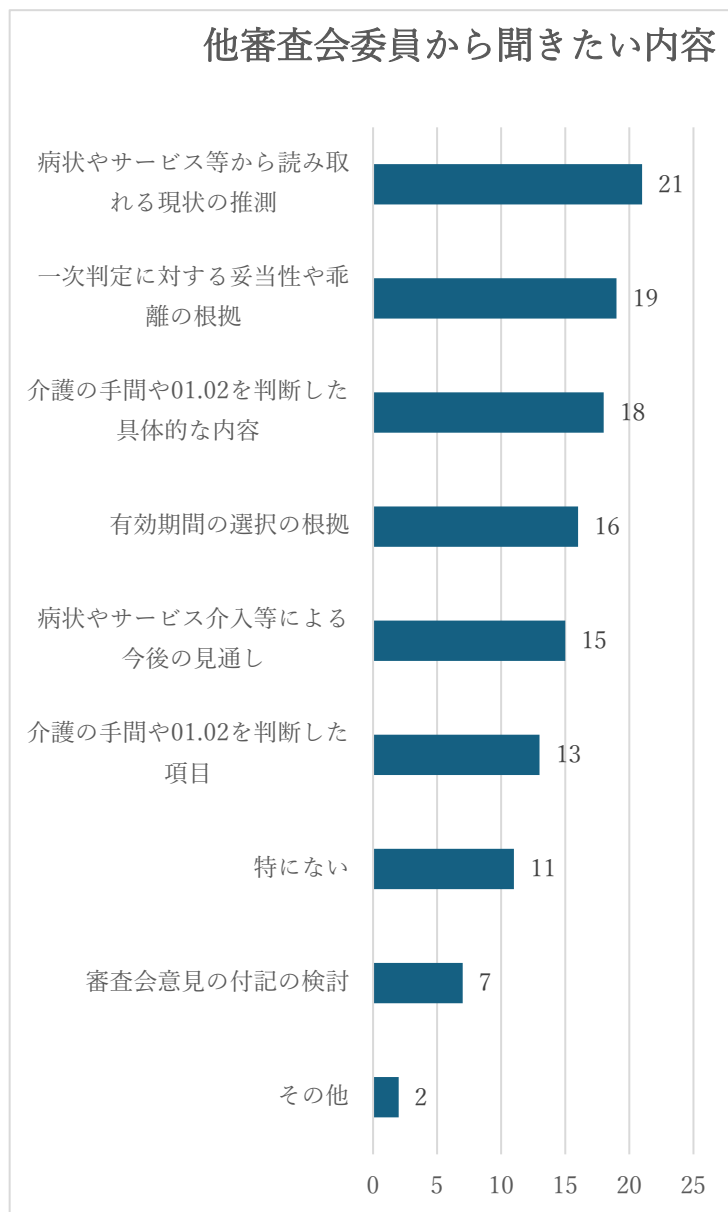
3. 審査の方法について

Q10. 他職種委員から特に意見を伺いたい内容はどの部分ですか？（複数回答）

選択肢	選択数	回答者比
病状やサービス等から読み取れる現状の推測	21	33.3%
一次判定に対する妥当性や乖離の根拠	19	30.2%
介護の手間や 01/02 を判断した具体的な内容	18	28.6%
有効期間の選択の根拠	16	25.4%
病状やサービス介入等による今後の見通し	15	23.8%
介護の手間や 01/02 を判断した項目	13	20.6%
特にない	11	17.5%
審査会意見の付記の検討	7	11.1%
その他	2	3.2%

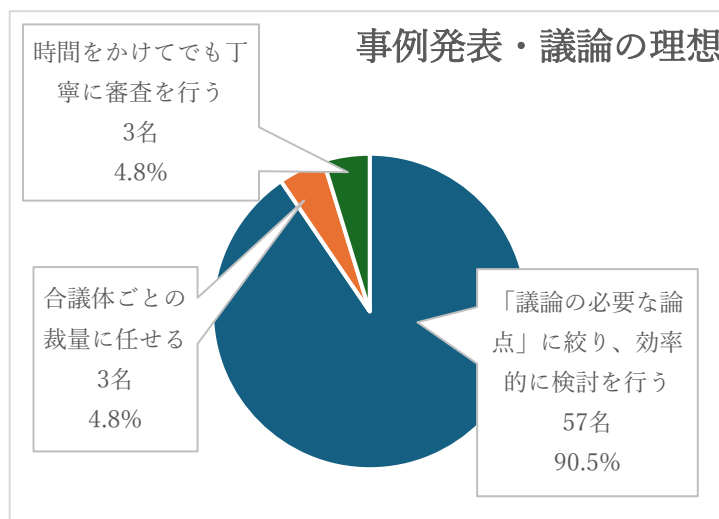
【その他】

- ・ 専門職としての意見。
- ・ 体調変化での区分変更申請が妥当だが、更新申請が重なり判断に迷った事例。



Q11. 合議における事例発表・議論について、最も理想的だと考えるものを 1 つ選んでください。

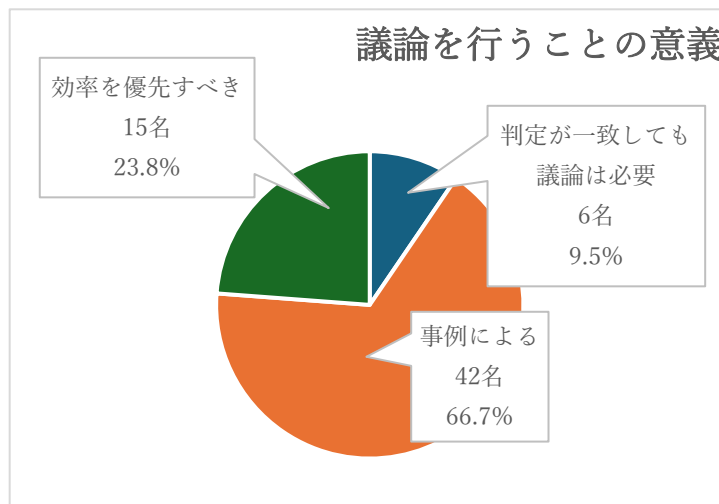
選択肢	人数	割合
「議論の必要な論点」に絞り効率的に検討	57	90.5%
時間をかけてでも丁寧に審査を行う	3	4.8%
合議体ごとの裁量に任せる	3	4.8%



- ・ 9 割近くが「論点を絞った効率的な検討」を選択。

Q12. 多数決や一次判定通りに決まることが想定される事例でも、あえて議論を行うことに意義があると考えますか？

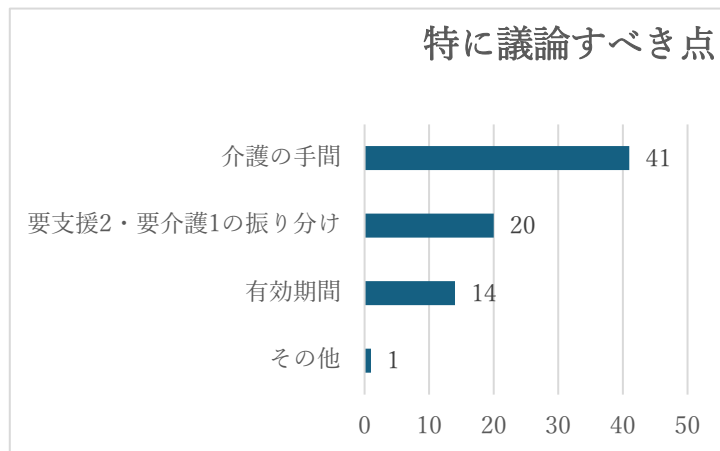
選択肢	人数	割合
はい：判定が一致しても議論は必要	6	9.5%
事例による	42	66.7%
いいえ：効率を優先すべき	15	23.8%



- ・ 「はい(議論必要)」は 6 名中 3 名が 4 期目以上であり、経験者ほど議論の意義を重視する傾向にある。

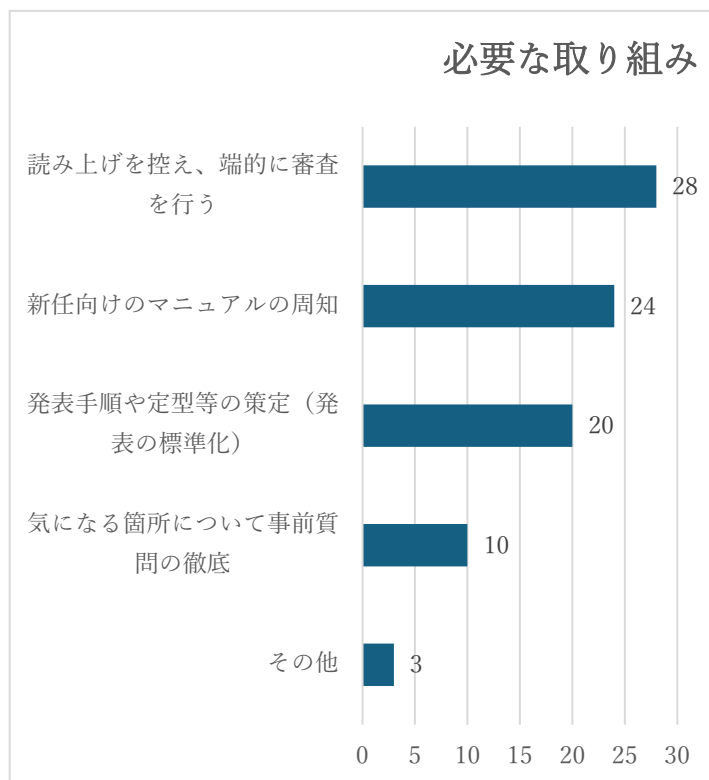
Q12-2. 上記で「はい」または「事例による」と回答された場合、特にどのような点を議論すべきと考えますか？(複数回答／「はい」「事例による」回答者 48 名対象)

選択肢	選択数
介護の手間	41
要支援 2・要介護 1 の振り分け	20
有効期間	14
その他	1



Q13. 審査会をより充実したものにするため、どのような取り組みが必要だと考えますか？(複数回答)

選択肢	選択数	回答者比
読み上げを控え、端的に審査を行う	28	44.4%
新任向けのマニュアルの周知	24	38.1%
発表手順や定型等の策定(発表の標準化)	20	31.7%
気になる箇所について事前質問の徹底	10	15.9%
その他	3	4.8%



【その他】

- ・ 全員一致の意見は簡素化のように確認のみにしてはどうか。
- ・ 特記事項の記入の標準化。

【まとめ】**効率化志向が明確**

- 理想の議論スタイルも9割以上が「論点を絞った効率的検討」を支持。
- Q13 でも「読み上げを抑える」「発表の標準化」が上位。
→ 発表手順の標準化・簡素化ルールの明文化を多くの委員が希望している。
- 「マニュアル周知」を 41.3%が希望している。
- 「審査会の見学が予習の参考になる」という意見もある。

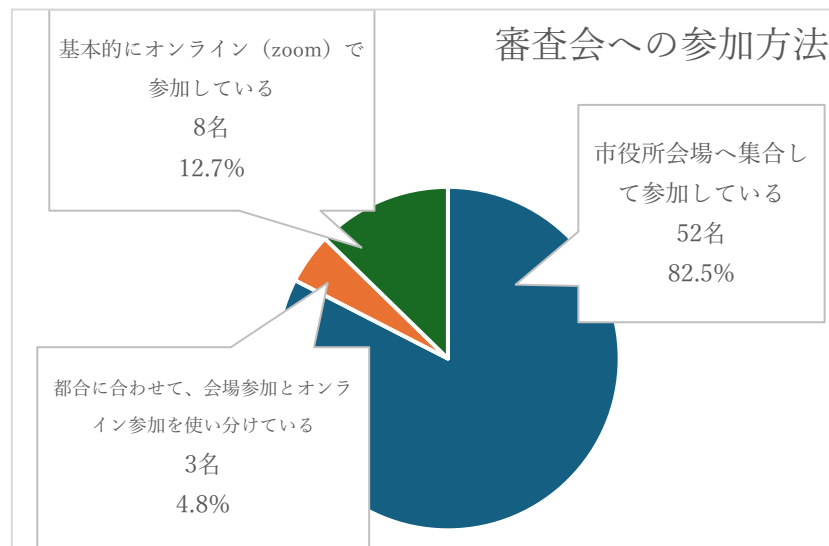
議論の焦点は「介護の手間」

- Q12-2 で議論すべき点として「介護の手間」(41 件)が突出していることから審査会で介護の手間を議論するという認識は浸透している。
- 効率化を進めつつも、介護の手間・01/02 振り分け・有効期間は丁寧に扱う、という共通認識が読み取れる。
- 一方で Q7 より「具体的な介護の手間」の認識には委員ごとにずれが生じていること見受けられる。

4. 審査会の開催方法について

Q14. 現在の審査会への参加方法

選択肢	人数	割合
市役所会場へ集合して参加	52	82.5%
基本的にオンライン（Zoom）	8	12.7%
会場とオンラインを使い分け	3	4.8%



Q15. 今後、どのような形式での参加を希望されますか？

選択肢	人数	割合
常に市役所会場で参加したい	32	50.8%
その時々都合で会場またはオンラインを選択	24	38.1%
常にオンライン（Zoom）で参加したい	5	7.9%
その他	2	3.2%

- 「常に市役所会場で参加したい」の集合形式の選択が 50.8%と、「その時々都合で選択」、「常にオンライン」のオンライン形式の選択が 46.0%と僅差となっている。

Q16. オンライン開催を行う上で、懸念されることはありますか？(複数回答)

選択肢	選択数	回答者比
接続環境の不安	29	46.0%
機器の準備・操作	21	33.3%
特にない	20	31.7%
議論のしやすさ	19	30.2%
その他	3	4.8%
費用負担	2	3.2%

【その他】

- 本業に時間がとれる。
- パソコンの反応が遅い。

【まとめ】

開催方法は「選択制」が支持されている

- 現状は会場参加が主流(82.5%)だが、今後は約半数が柔軟な参加を求めている。
- オンラインの懸念は接続環境・機器操作・議論のしやすさが中心である。